

トライアスロン エリートパラの部 秦由加子選手 金メダル!



2015年5月16日・土曜日、「世界トライアスロンシリーズ第5戦」が、横浜市の山下公園で開催されました。

トライアスロンは、スイム・バイク・ランの3種目を続けて行う競技で、エリート競技は、パラの部・女子の部・男子の部にわかれています。パラの部は雨が降っている中、約60人の選手が朝早くからレースをしました。距離はスイム(750m)、バイク(20km)、ラン(5km)です。

パラの選手は、それぞれがもっている障がいの程度で5つのカテゴリ(PT1~PT5)にわけられ、そのカテゴリ(男女別)ごとに順位を決めます。レースの時、視覚に障がいのある人は、ガイドと一緒に出場して、ひもでつないで泳いだり、二人乗りの自転車に乗って、コースを教えてもらいます。足に障がいがある人は義足でレースをしたり、ハンドサイクルでバイクのパートを走ります。このパラのレースでただ一人、日本人で金メダルをとったのがPT2の秦由加子選手(1時間28分57秒)です。他にも、PT5の山田敦子選手(1時間19分19秒)が銀メダル、PT4の佐藤圭一選手(1時間5分33秒)が4位と健闘しました。

エリート女子の部は、スイム(1.5km)、バイク(40km)、ラン(10km)で約60人のレースでした。路面がぬれていた為、転倒する選手もいました。そのような中、金メダルを獲得したのはアメリカのグウェン・ジョーゲンセン選手(1時間57分20秒)でした。日本人トップは上田藍選手で13位(1時間59分57秒)でした。

エリート男子の部は、女子と同じ距離を約65人でレースをしました。金メダルは、スペインのハビエル・ゴメス ノヤ選手(1時間47分)で、銀メダルを獲ったイギリスのブラウンリー選手とはわずか2秒の差でした。

日本人トップは、田山寛豪選手で20位(1時間48分53秒)でした。

【丸山ちな】



義足で走るPT2優勝の秦由加子選手

【撮影・丸山ちな】

トライアスロンの 違った楽しみ方



今回の取材では、レースが終わったばかりのPT5カテゴリ(視覚障がい)・山田敦子選手にインタビューする事が出来ました。「今日のレースは、地面が濡れていて滑って怖いと思ってた。でも、そういう時はガイドの武友麻衣さんがたくさん声をかけてくれたから助かった」と、レースの時の事や「目が見えなくなる前は、元々スポーツは嫌だったけど唯一好きだったバスケットボールをしていました。」などと、笑顔で色々な話をしてくれました。

他にも、レースを終えた選手達がリラックスした様子で会場を歩いていて、レースの時の真剣な表情とは違う顔を見る事が出来ました。

その両方の顔を見た事で、私は、トライアスロンが身近になった気がしました。それがとても良かったので、皆さんにもぜひ一度会場に足を運んで、観てみる事をおすすめします。会場では、出場選手がわかるパンフレットや資料を配っているの、お気に入りの選手を見つけ応援することも楽しいかもしれません。

【丸山ちな】

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『見る』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われますが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロのカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

